

【 英語 英語表現 I 1 学年 】

佐賀県立致遠館高等学校 授業者 佐賀県教育センター 宮西 紀生

◇単元名

Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館「Grammar 2」)

◇単元の目標

- ・見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝えることができる。
- ・相手の話す内容について、共感したり質問したりすることができる。

◇本時の目標

- ・ペアワークやグループワーク活動に積極的に参加し、自分の考えを主体的に話したり、コミュニケーションを円滑にする表現を使いながら、相手の話を聞いたりする。
- ・見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝える。
- ・中学校での既習事項である make を用いた「主語＋動詞＋目的語＋形容詞」に加えて高校での新出事項である「主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞」の用法を理解し、表現の幅を広げる。

◇配慮や工夫

本時の学習は、見たり聞いたりしたものについて、自分がどのような気持ちになるかを即興で伝えることをねらいとしている。そのために、活動方法についての説明の工夫やワークシートの工夫、そして生徒同士が積極的にコミュニケーション活動を行うことができるような学習形態の工夫が必要となってくる。

そこで、次のような配慮や工夫を行っていく。

導入では、見通しをもたせるために、本時の主な教材となるワークシートのタイトル部分に、本時の目標を示しておき、常に確認ができるようにする。また、学習内容と学習の流れが分かるように、ワークシートを授業の流れに沿った構成にし、見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

展開では、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について視覚的に理解できるように、活動の手順を示すイラストを電子黒板で提示する。そして、ペアでのコミュニケーション活動を取り入れ、人前で英語を話すことへの抵抗を和らげるようにする。

また、make を用いた本時のターゲットセンテンス(新出の文法事項を含む文)につなげるために、生徒の興味を促す動画を電子黒板で提示して、視聴後、気持ちを英語で表現させていく。そして、その動画に対するWeb上のコメントを基に、共通して使用されている make の言葉に気付かせるようにする。さらに、本時のターゲットセンテンスを活用できるように、ペアでのコミュニケーション活動を行う。その際、生徒にとって身近な生活場面などイメージをもちやすい場面の写真やイラストを提示して、コミュニケーション活動への意欲を高める。

まとめでは、学習を振り返らせるために、電子黒板で本時のターゲットセンテンスを提示して、学習で行った内容を確認する。

次の「本時の学習活動と具体的な学習環境」の「具体的な学習環境等」にある**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**とは、授業者が工夫をして取り入れたり、生徒アンケート等で効果が表れていたと捉えたりしている学習環境です。具体的な内容については、後の「取り入れた学習環境の実際と生徒の様子」で詳しく説明しています。また、各**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**の下にある〈 〉内の言葉は、生徒が抱える苦手さの領域を示しています。

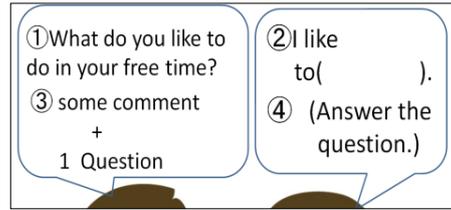
◇本時の学習活動と具体的な学習環境

過程	学習内容	具体的な学習環境等
導入	1 前時の学習の振り返りと本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で生徒が書いたワークシートを電子黒板に提示して、それを基に教師と生徒のやりとりを行う。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の目標を提示する。【学習環境Ⅰ】</li> <li>・ワークシートを授業の流れに沿った構成にする。【学習環境Ⅰ】</li> </ul>

展開

- 2 スモールトーク (ある話題について英語で行う短い会話) の仕方を確認する。
- 3 動画を見て感想を話し合う。
- 4 ターゲットセンテンスを確認する。  
 (1) Web上のコメントを見る。  
 (2) 共通して使われている表現を見付ける。  
 (3) 教科書で該当する表現を確認する。
- 5 写真やイラストを見て、ペアで自分の感情やそう思った理由を英語で伝え合う。

- 電子黒板に、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について提示して説明する。 【学習環境Ⅱ】



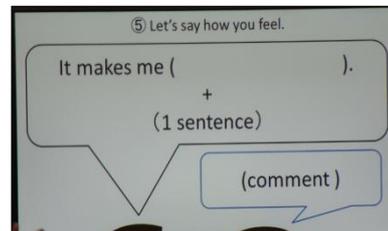
- 電子黒板で動画を提示する。 【学習環境Ⅲ】
- 生徒同士のペアでのコミュニケーション活動を行い、動画の感想を英語で表現させるようにする。 【学習環境Ⅳ】



- 動画の感想を言う際に、生徒が日常的に使いやすい語をワークシートにまとめておき配布する。 【学習環境Ⅲ】



- 提示した動画に対するWeb上のコメントを電子黒板に提示して、共通して使われている表現への気づきを促す。また、そのコメントが書かれたプリントを生徒に配布して、ポイントを書き込めるようにする。
- 教科書で表現の確認をさせる際には、口頭による指示だけでなく、黒板にも教科書のページを書いておく。
- 電子黒板にターゲットセンテンスを提示して、ペア活動の目標を確認する。 【学習環境Ⅱ】



- 生徒にとって身近な生活場面などイメージをもちやすい場面の写真やイラストを提示する。

まとめ

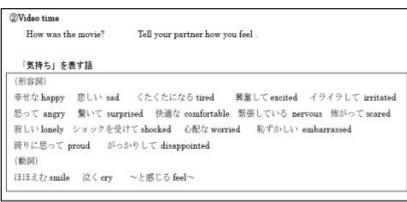
- 6 本時の学習内容を振り返る。

- 電子黒板のターゲットセンテンスを基に、本時の学習内容を振り返る。

◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

<p>学習環境Ⅰ 〈聞くこと〉</p>	<p>本時の目標をワークシートのタイトルにし、また授業の流れに沿ったワークシートの構成にする。</p>	
<p>取り入れた意図</p>	<p>英語での指示を聞いて覚えておくことが苦手な生徒にとって、本時の目標や授業の流れをワークシートに示しておくことで、常に本時の目標を意識したり、見通しをもって活動を行うことができたりするようにする。</p>	
<p>[本時の目標をタイトルにしたワークシート]</p> <div data-bbox="164 443 563 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Today's topic: <b>Let's say how you feel.</b></p> </div>	<p>生徒の取組の様子</p> <p>ワークシートに本時の学習の目標を示したことで、ペアでのコミュニケーション活動や教科書でターゲットセンテンスの表現を探す活動の際には、ワークシートの目標の箇所を確認していた。</p>	
<p>[授業の流れに沿ったワークシートの構成]</p> <div data-bbox="164 667 563 857" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>③ How do other people feel? Let's check the YouTube comments.</p> <p>④ Useful Expression</p> <p>Visiting Quest p12A ( m ) + O + C (OをCにする)</p> <p>p14C ( ) + O + do (Oに～させる)</p> <p>⑤ Let's say how you feel.</p> <p>It makes me ( ). + 1 sentence ( そう思った理由 )</p> <p>⑥ Let's enjoy small talk again. (with different partners)</p> <p>Homework: Write about your favorite ( book / music / singer / TV program / comic book ... )</p> </div>	<p>生徒の取組の様子</p> <p>ワークシートの①～⑥の順番を見ながら、次の活動へ移ることができていた。</p>	
<p>[学習環境の考察]</p> <p>英語での指示を聞いて覚えておくことが苦手な生徒も、本時の主な教材となるワークシートに、本時の目標や学習の流れを示したことで、生徒は何度もワークシートを見ながら、常に目標を意識できたと思われる。また、次の段階に移る際には口頭での指示だけでなく、生徒の前でワークシートを指さしながら説明を行ったことで、指示の内容を理解するための視覚的な補助になったと考える。</p>		

<p>学習環境Ⅱ 〈聞くこと〉</p>	<p>電子黒板にイラストを提示して、生徒同士で行うコミュニケーション活動の仕方について視覚補助を与える。</p>	
<p>取り入れた意図</p>	<p>英語での指示を聞くことが苦手な生徒にとって、活動の方法を口頭での説明だけでなく、電子黒板でイラストを提示して視覚的な補助を与えることで、指示されている内容が分かりやすくなるようにする。</p>	
<p>[電子黒板に活動の方法を提示する]</p> <div data-bbox="164 1406 563 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① What do you like to do in your free time?</p> <p>② I like to ( ).</p> <p>③ some comment + 1 Question</p> <p>④ (Answer the question.)</p> </div>	<p>生徒の取組の様子</p> <p>生徒は、電子黒板に提示されたイラストを見ながら、ペアでスムーズにコミュニケーション活動を始めた。質問に対する答えだけでなく質問に対するコメントをするなど、積極的にコミュニケーション活動を行っていた。</p>	
<p>[ターゲットセンテンスを提示する]</p> <div data-bbox="196 1641 499 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>⑤ Let's say how you feel.</p> <p>It makes me ( ).</p> <p>+ (1 sentence)</p> <p>(comment)</p> </div>	<p>生徒の取組の様子</p> <p>生徒は、電子黒板に提示されたターゲットセンテンスを見ながら、スムーズにペアでのコミュニケーション活動を始めた。どの生徒も、センテンスの中の空いている箇所に、気持ちを表す言葉を入れて話すことができていた。</p>	
<p>[学習環境の考察]</p> <p>英語で授業を行う際には、英語の聞き取りが苦手な生徒にとっては、活動内容の説明を理解するだけでも苦勞することが考えられる。イラストや文字で活動の仕方を段階的に視覚的に示すことで、生徒は安心して活動に取り組むことができ、コミュニケーション活動に積極的に取り組むことができたと考える。</p>		

<b>学習環境Ⅲ</b> <b>〈話すこと〉</b>	英語で気持ちを伝える活動で、動画や画像を提示したり、気持ちを伝える際に使いそうな英単語をワークシートにまとめたりする。
<b>取り入れた意図</b>	自分の考えをもつことが苦手な生徒にとって、動画を電子黒板で提示したり、ワークシートで気持ちを表す英単語を選択肢として提示したりすることで、視覚的に内容を理解することができ、自分の気持ちを伝え合う活動に取り組みやすくする。
<p style="text-align: center;"><b>〔動画の提示〕</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> <p>動画の視聴の際には、どの生徒も興味をもって取り組んでいた。視聴した動画には、英語での台詞などがなかったので、リラックスして視聴をしていたようだ。</p>
<p style="text-align: center;"><b>〔気持ちを表す語のリスト〕</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> <p>動画を見た気持ちを表現する際、気持ちを表す語のリストを基に、自分の気持ちに合う英単語を探す生徒が見られた。また、生徒の中には、普段はあまり使わないと思われるなじみのない英単語を使っている姿も見られた。</p>
<p><b>〔学習環境の考察〕</b></p> <p>動画での提示は、自分の考えをもつことが苦手な生徒も、視覚的に内容を理解しやすく、「自分の気持ちを伝える」活動に取り組むことができたと考える。また、気持ちを表す語のリストを活用したことで、生徒はいろいろな気持ちを表す英単語をリストの中から選択することができ、英語で表現しやすくなったと考える。</p>	

<b>学習環境Ⅳ</b> <b>〈話すこと〉</b>	生徒同士がペアでコミュニケーション活動を行う場面を設定する。
<b>取り入れた意図</b>	全体の前で発表することが苦手な生徒にとって、全体発表の前に、ペアでのコミュニケーション活動を行うことで、英語で話すことへの抵抗感を和らげるようにする。
<p style="text-align: center;"><b>〔ペアでのコミュニケーション活動〕</b></p> 	<p><b>生徒の取組の様子</b></p> <p>4つの活動の中で、ペアによるコミュニケーション活動を行った。生徒が活動の始めに戸惑う場面が見られる活動もあったが、全体的に、多くの生徒が英語で自己表現をする姿が見られた。中でも、「暇なときによくやること」というテーマでのスモールトークや、「明日の英語の授業は自習です」という情報を見てどのように感じるかを話す活動では、自分から英語で話そうとする姿が多く見られた。</p>
<p><b>〔学習環境の考察〕</b></p> <p>全体の前で発表することが苦手な生徒も、ペア活動を取り入れることにより、少人数であるという安心感をもつことができ、全体の前で発言することへの抵抗感を和らげるにつながったと思われる。また、活動の途中で、ペア活動のパートナーを代えたことにより、生徒は、英語で話すことができる相手が増え、更に話すことへの意欲につながったと考える。また、話しやすい話題においては、各生徒の発話量を増やすことにつながったと思われる。</p>	